「ふふっ、こんな胸でおちんちんを挟んで
しごく行為に意味なんてあるのかい？」
「パイズリだけでは赤ちゃんはできないよ？」
ずにゅ♥
ずりゅ♥

『おっと、』
びゅぶっ♥
びゅるっ♥

「ふふっ、すごい量だ♡」
どぷっ…♥
どろぉ…♥
「君にとってパイズリが人生に大切なもの
ならこれからも私が付き合ってあげるよ♡」

「どうかしら私のおっぱいは？」
「ケイさんやノンナさんの下品なパイズリとは違いますでしょう？♡」
ずりゅ♥
むにゅ♥

『んっ♡』
どぷっ♥
びゅるるっ♥

「毎回毎回パイズリだと
ミルクティーが作れそうなくらい
いっぱい射精するのね♡」
「ふふっ、貴方のおちんちんはサンドイッチの
きゅうりと同じで挟まれたほうがいい味が
でるのかしら♡」
どろぉ…♥
とぷっ♥

「もう、これから大事な試合なのに
こんなことさせて♡」
「ま、貴方なら簡単におっぱいで
イっちゃうからいいけどね♡」
ずりゅ♥
むりゅ♥

『んっ・・・』
どぴゅっ
ぐぢゅっ♥

「ふふっ、またいっぱい射精したわね♡
スッキリした？」

「じゃあ試合にいってくるからしっかり応援してね。
帰ってきたらまたパイズリしてあげるから♡」

「あの・・早く済ませて下さいね？」
「この後戦車道の授業があるんです・・」
むにゅ♥
ずにゅ♥

「あっ・・こんなにいっぱい・・・」
どびゅっ♥
びゅる♥

「うぅ・・これでは匂いで皆にバレてしまいます・・・」
「えっ?今日は休んでこれから勃たなくなるまでですか?・・・・もう、本当にパイズリが好きなんですね」
どぷっ♥
どろっ♥

「本当に毎日毎日胸ばかりよく飽きないわね！
頭おかしいんじゃないのこの変態！」
ずにゅ
ずりゅ

「んうっ！」
どぷっ♥
びゅるっ♥

「また顔にまで射精したわね・・・！
アンタのことだからこれでも満足してないんでしょ？」
「ほら、早く続けなさいよこのおっぱいバカ！」
どぴゅっ
ぶるるっ

「ねぇ、本当にいつでもどこでもパイズリできるのが良い彼女の条件なの？」
「流石に授業抜けだしてこれはマズいよぉ・・・」
ずりゅ♥
ずにゅ♥

「あ、やだいっぱい射精てるよぉ・・」
どぴゅっ♥
びゅっ♥

「うぅ・・おっぱいがベトベト・・・
これじゃあ戻れないよ・・」
「えっ、じゃあこのままもう一回って
まだするつもりなの？」
どぷっ…♥
どろっ…♥